

資料 8

令和 5 年 7 月 2 8 日

京都市教育長 稲田 新吾 様

京都市小学校教科書選定委員会

委員長 林 正和

令和 6 年度から令和 9 年度までに京都市立小学校及び義務教育学校（前期課程）  
において使用する各教科使用教科書の選定について（答申）

別紙のとおり答申いたします。

## 京都市小学校教科書選定委員会 答申

国語科について、以下の観点に基づき、発行社ごとに教科書を調査・研究した。

### 選定の観点

- 1 基礎的・基本的な知識・技能の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。
- 2 習得した知識・技能を活用した問題発見・解決的な学習や豊かな言語活動が展開しやすいなど、思考力・判断力・表現力等の育成につながるよう工夫・配慮されていること。
- 3 児童が主体的・対話的に学ぶことができるよう、探究意欲を高める工夫・配慮がなされ、さらに、学んだことを活用した発展的な学習が展開しやすいこと。また、ICT機器の活用も含め、個別最適な学びと協働的な学びを展開しやすいよう工夫・配慮されていること。
- 4 国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力の育成に向け、伝え合う力、思考力や想像力及び言語感覚を養う教材が適切に配列されるとともに、実生活との関連を重視した言葉による見方・考え方を働かせた活動が展開しやすいこと。
- 5 我が国の言語文化、言葉の特徴や使い方、情報の扱い方に関する事項について、教材や活動が適切に取り上げられていること。
- 6 単元構成の系統性・発展性に加え、カリキュラム・マネジメントの視点から他教科等や現代的な教育諸課題との関連、また他校種との接続や家庭・地域との連携について工夫・配慮されていること。
- 7 基本的人権の尊重及び道徳性の育成の視点に立った内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道徳教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。
- 8 表記や表現について、文章や写真、図表等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成等について配慮がなされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

## 国語科

### 調査研究の結果の概要

#### ■東京書籍「新しい国語」

「読むこと」の単元末に掲載されている「こんな本もいっしょに」では、教材文に関連する図書を紹介し、読書を促すように工夫されているほか、図書館活用、図書紹介や読書活動等の読書単元を年間3か所に設定し、1年を通して読書に親しむ習慣や態度を育むことができるよう工夫されている。また、各学年において、夏休み前と冬休み前に「本は友達 ○年生の本だな」を設定し、学年に応じた多様な図書や著名人による読書体験文、ブックトークや読書マップのような読書の楽しさを広げる活動などを紹介することで、読書への興味・関心を高められるようになっており、優れている。

各単元の冒頭の「見通す」において、どのような言語活動を通して資質・能力を育成していくのが具体的にイメージできるように示されている。また、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各単元に、それぞれ具体的な言語活動が分かるよう示されており、工夫されている。

巻頭に「思い出そう、見通す、取り組む、ふり返る、生かそう」の5段階の学習過程で「国語の学習の進め方」の全体像を示すとともに、各単元の冒頭の「思い出そう、見通す」にキャラクターを配置して、「どんな言葉の力をつけるのか」「どのように学びを進めるのか」といった学習活動の核を浮き立たせることで、児童が見通しを持って主体的に学習しやすいよう工夫されている。また、各単元において、セリフ形式で対話的な学びのモデルとなる児童の発言例を数多く示すなど、具体的な言語活動が分かりやすく、対話的な学びを促している。

2年生以上の各学年にある「季節の足音」では、四季それぞれに合った言葉や詩が掲載され、日本の季節の変化とそれを表す言葉のもつ豊かさを意識できるよう工夫されている。

各学年の「伝えたい言葉」では、昔話、神話、慣用句、俳句、故事成語、百人一首、古文、漢文、古典芸能などを取り上げ、伝統的な言語文化に親しんだり、長く使われてきた言葉について理解を深めたりすることができる。また、2年生以上では、四季に合わせて年間4回の「季節の足音」を設け、季節感あふれる詩や短歌、俳句とともに、二十四節気や和風月名などを掲載することで、言葉の美しさを味わうことができるよう工夫されている。

6年生の「発信しよう、わたしたちのSDGs」では、SDGsについて協働的に調べ発信する活動を設定しているほか、環境、情報化社会、戦争・平和、防災・安全、食育、郷土・伝統などの様々な現代的諸課題にも関連する教材を多く取り上げており、児童が関心を高めて考えをもつことができる。また、各単元末の「生かそう」の項目では、「算数の学習で分かったことや考えたことについて黒板などを使って説明する」と示すなど、「言葉の力」を他教科で生かせる場面が具体的に示されており、優れている。

#### ■教育出版「ひろがる言葉 小学国語」

学校図書館を計画的・機能的に活用するための情報活用教材と、読書意欲を高めて日常生活にお

いて読書活動を活発に行うための読書交流教材を全学年に設け、読書習慣の基盤を築くことができるよう工夫されているほか、巻末の付録に図書紹介ページとして「〇年生で読みたい本」を設け、多様なテーマの図書を紹介し、読書を促すよう工夫されている。

「読むこと」の単元では、「見通しをもとう」において、どのような言語活動を通して学ぶのかが分かるよう、めあてとともにイラストとセリフで示されている。また、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各単元名に、それぞれの具体的な言語活動が明示されており、工夫されている。

「話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと」の学習では、単元冒頭や単元末でそれぞれの単元に応じた学習過程を示すとともに、単元の中で重要な学習部分はハイライト表示をすることで児童が見通しを持つことができるよう工夫されている。また、「伝え合おう」で、イラストやセリフで発言例を示すなど対話的な学びを促している。しかしながら、学年の初めに国語科の学習の進め方が分かるようなページが設定されておらず、学習過程における活動例も指示的な表現にとどまっているため、児童が探究意欲を高めて主体的に学ぶための工夫が弱い。

巻末付録の「言葉の木」では、各学年に応じて「似た意味の言葉、反対の意味の言葉」や「同じ言葉の木」、「慣用句の木」などが設定されており、普段自分が使っている言葉に立ち止まらせることで、言葉に対する豊かな感覚を育むことができるよう工夫されている。

各学年の「言葉の広場」と「言葉の文化」において、原則として古典作品に触れる教材と、季節の風物や言葉遊びなどの言語文化に目を向ける教材を系統的に配置し、我が国の言語文化に興味を持つことができるよう工夫されている。

5年生の「世界遺産 白神山地からの提言」及び6年生の「雪は新しいエネルギー」では、他教科や社会的課題に関連する教材が用いられるほか、3年生以上の巻頭「〇年生で学ぶこと」においては、SDGsに関連する項目に目標のアイコンを示すことで、児童が現代的諸課題に関心を持つことができるほか、巻末の「言葉の工具箱」の中には、アンケートのとり方や電話のかけ方、電子メールの送り方などが示されており、他教科等との関連が図れるよう工夫されている。

## ■光村図書出版「国語」

「読むこと」の単元末にある「この本、読もう」では、単元の学習と関連させて、昔から伝わる文様や遊び、メディアとの関わり方など様々な角度から本を紹介し、読書を促すように工夫されているほか、巻末付録「本の世界を広げよう」において、テーマやジャンル別に分けて学年に応じた多様な図書を紹介し、読書活動が充実するよう工夫されている。さらに、全学年に年間2回の読書単元「本は友達」を設け、日常的に図書館を利用し、読書に親しみ、学習に生かすことができるようになっており、優れている。

各単元の冒頭の「見通しをもとう」において、どのような言語活動を通して資質・能力を育成していくのかが具体的にイメージできるように示されている。また、「文章の要旨をとらえ、考えたことを伝え合おう」のように、単元名に育成をめざす資質・能力と具体的な言語活動の両方が明示されているなど、児童がめあてを意識して学習を進められるようになっており、優れている。

巻頭に他のページと幅や紙質を変えた「国語の学びを見わたそう」を設け、学習過程や学習内容

を示すとともに、各単元の冒頭に「問いをもとう」を掲載し、自らが課題を設定し主体的に解決する探究的な学習過程に沿って、資質・能力が育成できるよう、よく工夫されている。また、単元の中で、友達との対話を通して問題を解決したり、考えを広げたりしている児童の様子を例示し、資質・能力の育成に向けた主体的・対話的な学びをイメージしやすいよう配慮されており、優れている。

2年生以上の各学年にある「きせつのことば」では、四季に合った言葉や詩が掲載され、日本の季節の変化とそれを表す言葉のもつ豊かさを意識できるよう工夫されている。

神話・伝承、民話・昔話、俳句・短歌、古文・漢文などの作品を多数取り上げ、これらに親しむ活動を通して、日本語の美しさや豊かさに触れるとともに、我が国の言語文化を継承し、新たな創造や発展を願う態度を育むことができる。また、2年生以上では「声に出して読もう」や「季節の言葉」を設け、俳句や短歌などの伝統的な言語作品に触れて音読をしたり暗唱をしたりすることができるほか、日本人の季節感を育んできた様々な伝統行事や風物などを言葉とともに取り上げ、それらを題材とした韻文に触れることで語感を育むことができるようになっており、優れている。

5年生の「自然環境を守るために」では、日本や世界の環境問題について調べ、考えたことを発信する活動を設定しており、SDGsに関連する教材を多く取り上げたり、2年生以上の巻末に「SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けて」として図書を紹介したりするなど、児童が関心を高めて自分の考えを持つことができるよう工夫されている。また、3年生の「食べ物のひみつを教えます」や6年生の『鳥獣戯画』を読むなど、他教科等との関連を意識した単元が配列されているほか、モデル文として他教科の題材を取り上げている単元もあり、工夫されている。

※詳細の結果・データは、観点別資料及び観点別・視点別評価資料に記載。

選定の観点		選定の視点			東京書籍	教育出版	光村図書
1	基礎的・基本的な知識・技能の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。	1	指導事項の明確化	○	○	○	
		2	豊かな語彙力の育成につながる工夫	○	○	○	
		3	読書の意義や効用	◎	○	◎	
2	習得した知識・技能を活用した問題発見・解決的な学習や豊かな言語活動が展開しやすいなど、思考力・判断力・表現力等の育成につながるよう工夫・配慮がされていること。	1	既習事項の活用	○	○	◎	
		2	思考力・判断力・表現力の育成に向けた工夫	○	○	○	
		3	言語活動の充実に向けた工夫	○	○	◎	
3	児童が主体的・対話的に学ぶことができるよう、探究意欲を高める工夫・配慮がなされ、さらに、学んだことを活用した発展的な学習が展開しやすいこと。また、ICT機器の活用も含め、個別最適な学びと協働的な学びを展開しやすいよう工夫・配慮がされていること。	1	探究意欲を高め、主体的・対話的に学ぶための工夫	○	△	◎	
		2	発展的な学習活動を促すための工夫	○	△	◎	
		3	ICT機器を活用するなど、個別最適な学びと協働的な学びを展開するための工夫	◎	○	○	
4	国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力の育成に向け、伝え合う力、思考力や想像力及び言語感覚を養う教材が適切に配列されるとともに、実生活との関連を重視した言葉による見方・考え方を働かせた活動が展開しやすいこと。	1	言語感覚等の育成につながる工夫	○	○	○	
		2	実生活と関連づけた学習の工夫	◎	○	◎	
5	我が国の言語文化、言葉の特徴や使い方、情報の扱い方に関する事項について、教材や活動が適切に取り上げられていること。	1	伝統的な言語文化の取り扱い	○	○	◎	
		2	情報活用の知識・技能の習得につながる工夫	◎	○	◎	
6	単元構成の系統性・発展性に加え、カリキュラム・マネジメントの視点から他教科等や現代的な教育諸課題との関連、また他校種との接続や家庭・地域との連携について工夫・配慮がされていること。	1	単元構成の系統性・発展性	○	○	○	
		2	他教科や教育課題等との関連	◎	○	○	
		3	他校種との接続	○	○	◎	
		4	家庭・地域との連携	○	○	○	
7	基本的な人権の尊重及び道徳性の育成の視点に立った内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道徳教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。	1	人権教育の推進	○	○	○	
		2	道徳教育の推進	○	○	○	
8	表記や表現について、文章や写真、図表等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成等について配慮がなされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。	1	文章や写真、図表等の適切さ、正確性、使いやすさの工夫	○	○	○	
		2	ユニバーサルデザインの視点	○	○	○	
		3	装丁や編集の適切さ、堅牢性の工夫	○	○	○	
		4	用紙、インク等の環境面への配慮	○	○	○	

【国語】観点別資料

【選定の観点1】

基礎的・基本的な知識・技能の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。

発行者名		
2 東京書籍	17 教育出版	38 光村図書
<p>○各単元の始めと単元末にある「言葉の力」において付けたい力とそのまとめが示されており、児童がその習得に向けて重要となる基礎的・基本的な知識・技能を意識しながら学習を進めることができるよう工夫されている。</p> <p>○巻末付録の「学習で使う言葉」では、単元の学習で使う用語とその解説が示されているほか、同じく巻末付録「言葉の広場」で、生活場面で使う言葉や感情を表す言葉、比喩の言葉など、特定の場面や状況で使う言葉を集めて示されており、単元の学習と合わせて多様な語彙が取得できるよう工夫されている。</p> <p>○「読むこと」の単元末に掲載されている「こんな本もいっしょに」では、教材文に関連する図書を紹介し、読書を促すように工夫されているほか、図書館活用、図書紹介や読書活動等の読書単元を年間3か所に設定し、1年を通して読書に親しむ習慣や態度を育むことができるよう工夫されている。また、各学年において、夏休み前と冬休み前に「本は友達 ○年生の本だな」を設定し、学年に応じた多様な図書や著名人による読書体験文、ブックトークや読書マップのような読書の楽しさを広げる活動などを紹介することで、読書への興味・関心を高められるようになっており、優れている。</p>	<p>○各巻冒頭に「○年生で学ぶこと」が設けられ、教材や学習内容を概観することができるよう工夫されているほか、単元末の「ここが大事」では、他の教材でも活用できる汎用性のある学習のポイントや学習用語の解説がまとめられ、内容の理解と定着を促すよう工夫されている。</p> <p>○単元末の「言葉を増やそう」では、天気や家族、実験・観察等に関する言葉など教材内で扱われた言葉と関連のある様々な言葉が提示され、語句集めと文作りの活動を通して、子どもの語彙の増加と実生活での定着を図ることができるよう工夫されている。</p> <p>○学校図書館を計画的・機能的に活用するための情報活用教材と、読書意欲を高めて日常生活において読書活動を活発に行うための読書交流教材を全学年に設け、読書習慣の基盤を築くことができるよう工夫されているほか、巻末の付録に図書紹介ページとして「○年生で読みたい本」を設け、多様なテーマの図書を紹介し、読書を促すよう工夫されている。</p>	<p>○巻頭の「国語の学びを見わたそう」や各単元の冒頭とまとめの「たいせつ」において、単元で付けたい力が領域ごとに整理して示されており、児童が基礎的・基本的な知識・技能を意識しながら学習を進めることができるよう工夫されている。</p> <p>○巻末の「学習に用いる言葉」では、単元の学習で使う用語とその解説が示されているほか、巻末の「言葉の宝箱」では、人物を表す言葉、事物を表す言葉、心情を表す言葉などを集めて示されており、単元の学習と合わせて多様な語彙が取得できるよう工夫されている。</p> <p>○「読むこと」の単元末にある「この本、読もう」では、単元の学習と関連させて、昔から伝わる文様や遊び、メディアとの関わり方など様々な角度から本を紹介し、読書を促すように工夫されているほか、巻末付録「本の世界を広げよう」において、テーマやジャンル別に分けて学年に応じた多様な図書を紹介し、読書活動が充実するよう、よく工夫されている。さらに、全学年に年間2回の読書単元「本は友達」を設け、日常的に図書館を利用し、読書に親しみ、学習に生かすことができるようになっており、優れている。</p>

【選定の観点2】

習得した知識・技能を活用した問題発見・解決的な学習や豊かな言語活動が展開しやすいなど、思考力・判断力・表現力等の育成につながるよう工夫・配慮されていること。

発行者名		
2 東京書籍	17 教育出版	38 光村図書
<p>○各単元の冒頭で、二次元コードから前学年での学びを確かめられる「思い出そう」を配置するとともに、巻末付録にある「言葉の力」において、当該学年と前学年で学習した内容のつながりをまとめて掲載しており、習得した資質・能力を確認して学習を進められるよう工夫されている。</p> <p>○「読むこと」の単元と「書くこと」の単元の間「情報のとびら」を掲載して、2つの単元に関連性を持たせることで、習得した知識・技能を活用しながら思考力・判断力・表現力を育成できるよう工夫されている。また、各学年の「国語のノート」の作り方」や「デジタルノートの作り方」において、自分の考えやそこに至った理由、友達の考えなどをまとめていく活動が示されているほか、各単元に児童のノートや発言、対話の例などを具体的に示すことで、児童が思考を巡らせたり発言したりする際の参考として活用できるよう工夫されている。</p> <p>○各単元の冒頭の「見通す」において、どのような言語活動を通して資質・能力を育成していくのかが具体的にイメージできるように示されている。また、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各単元に、それぞれ具体的な言語活動が分かるよう示されており、工夫されている。</p>	<p>○巻末付録に「言葉の道具箱」が掲載されており、学習用語や学習した事項について、確かめることができるよう工夫されている。</p> <p>○「読むこと」の単元の後に「書くこと」の単元を配列し、習得した知識・技能を活用しながら思考力・判断力・表現力を育成できるよう工夫されている。また、3年生の「発見ノート」や5年生の「情報ノート」、3年生及び5年生の「漢字学習ノート」では、具体的な学習場面を設定したノートのまとめ方を示し、児童が思考を巡らせたりまとめたりする際の参考として、年間を通して活用できるよう工夫されている。</p> <p>○「読むこと」の単元では、「見通しをもとう」において、どのような言語活動を通して学ぶのかが分かるよう、めあてとともにイラストとセリフで示されている。また、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各単元名に、それぞれの具体的な言語活動が明示されており、工夫されている。</p>	<p>○巻頭に、他のページと幅や紙質を変えた「国語の学びを見わたそう」を設け、単元で付けたい力と関連する既習事項を領域ごとに整理して示すとともに、単元冒頭でも再度「これまでの学習」として、関連する既習単元を示すなど、既習事項を意識して学習を展開することができるようになっており、優れている。</p> <p>○「読むこと」の単元の後に関連した内容の「書くこと」の単元を配列し、習得した知識・技能を活用しながら思考力・判断力・表現力を育成できるよう工夫されている。また、巻末の「図を使って考えよう」では、考えを整理し、深める手法として、思考を表す表現やツールが示されているほか、各単元に児童のノートや発言、対話の例などを具体的に示すことで、児童が思考を巡らせたり発言したりする際の参考として活用できるよう工夫されている。</p> <p>○各単元の冒頭の「見通しをもとう」において、どのような言語活動を通して資質・能力を育成していくのかが具体的にイメージできるように示されている。また、「文章の要旨をとらえ、考えたことを伝え合おう」のように、単元名に育成をめざす資質・能力と具体的な言語活動の両方が明示されているなど、児童がめあてを意識して学習を進められるようになっており、優れている。</p>

【選定の観点3】

児童が主体的・対話的に学ぶことができるよう、探究意欲を高める工夫・配慮がなされ、さらに、学んだことを活用した発展的な学習が展開しやすいこと。また、ICT機器の活用も含め、個別最適な学びと協働的な学びを展開しやすいよう工夫・配慮されていること。

発行者名		
2 東京書籍	17 教育出版	38 光村図書
<p>○巻頭に「思い出そう」、「見通す」、「取り組む」、「ふり返る」、「生かそう」の5段階の学習過程で「国語の学習の進め方」の全体像を示している。また、各単元の冒頭では「思い出そう」と「見通す」に見開き2ページを使うとともに、キャラクターを配置するなどして、「どんな言葉の力をつけるのか」「どのように学びを進めるのか」といった学習活動の核を浮き立たせることで、児童が見通しを持って主体的に学習しやすいよう工夫されている。さらに、各単元において、セリフ形式で対話的な学びのモデルとなる児童の発言例を数多く示すなど、具体的な言語活動が分かりやすく、対話的な学びを促すよう工夫されている。</p> <p>○単元で身に付けることを目指した「言葉の力」を単元末でも意識できるよう「ふり返る」が設定されており、さらに「生かそう」では、学習内容と学校生活・日常生活とのつながりを示す場面を具体的に例示している。また、巻末付録には、該当学年と前学年で学んだ「言葉の力」をまとめて掲載するとともに、思考ツールをはじめ、既習教材や関連教材などの多様なコンテンツを掲載することで、単元内や発展的な学習での活用を意識できるよう工夫されている。</p> <p>○発達段階に応じて、ICT機器を効果的に活用する学習活動を設定し、イラストやセリフでそのイメージがもてるよう工夫するとともに、3年生以上の巻頭に図や表を使って整理した「デジタルノートの作り方」を設け、適所に掲載された二次元コードから実際に活用できるようにすることで、児童が目的や必要に応じてICT機器を効果的に活用できるようになっており、優れている。</p>	<p>○「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の学習では、単元冒頭や単元末でそれぞれの単元に応じた学習過程が示されており、さらに単元の中で重要な学習部分はハイライト表示をすることで児童が見通しを持つことができるよう工夫されている。また、「伝え合おう」では、イラストやセリフで発言例を示すなど対話的な学びを促す工夫が見られる。しかしながら、学年の初めに国語科の学習の進め方が分かるようなページは設定されておらず、学習過程における活動例も指示的な表現にとどまっているため、児童が探究意欲を高めて主体的に学ぶための工夫が弱い。</p> <p>○単元末の振り返りでは、単元目標に関連した「ここが大事」を示すことで、身に付いた力が意識できるよう工夫されているが、その一方で、他教科や実生活につなげる具体の例示は少なく、学んだことを活用し発展的な学習につなげるための工夫としては弱い。</p> <p>○発達段階に応じて、ICT機器を効果的に活用する学習活動を設定し、イラストやセリフでそのイメージを持ち、目的や必要に応じて個別最適・協働的に学ぶことができるよう工夫されている。</p>	<p>○巻頭に他のページと幅や紙質を変えた「国語の学びを見わたそう」を設け、学習過程や学習内容を示すとともに、各単元の冒頭に「問いをもとう」というコーナーを掲載し、自らが課題を設定し主体的に解決する探究的な学習過程に沿って、資質・能力が育成できるよう、よく工夫されている。また、単元の中で、友達との対話を通して問題を解決したり、考えを広げたりしている児童の様子を例示し、資質・能力の育成に向けた主体的・対話的な学びをイメージしやすいよう配慮されており、優れている。</p> <p>○単元末の「ふりかえろう」では、評価の3観点に対応した振り返りをそれぞれ問いの形で示しており、さらに「いかそう」では、学習内容と学校生活・日常生活とのつながりを示す場面を具体的に例示している。また、学年末の「〇年生をふり返って」や巻末付録『『大切』のまとめ』では、身に付いた言葉の力やその力を生かしたいときについて児童が自分で書き込める欄を設けるとともに、付録「学習を広げよう」で、課題解決方法や思考ツール、既習の教材と関連する教材や資料など、多様なコンテンツを掲載することで、他単元や他教科等において学んだことを活用し、発展的な学習につなげられるようになっており、優れている。</p> <p>○「話すこと・聞くこと」では、スピーチや話し合い、インタビューなどの実写動画を二次元コードで示すことにより、紙面からは伝わりにくい話す速さや間の取り方、資料の示し方などICT機器を活用しながら児童自身が必要に応じて確かめ、個別最適に学ぶことができるよう工夫されている。</p>

【選定の観点4】

国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力の育成に向け、伝え合う力、思考力や想像力及び言語感覚を養う教材が適切に配列されるとともに、実生活との関連を重視した言葉による見方・考え方を働かせた活動が展開しやすいこと。

発行者名		
2 東京書籍	17 教育出版	38 光村図書
<p>○2年生以上の各学年にある「季節の足音」では、四季それぞれに合った言葉や詩が掲載され、日本の季節の変化とそれを表す言葉のもつ豊かさを意識できるよう工夫されている。</p> <p>○各単元末の「生かそう」では、学習内容と学校生活・日常生活とのつながりを示す場面を具体的に例示しているとともに、他教科等の学習や日常生活に即した題材や言語活動を豊富に例示し、実生活と結び付けて取り組むことができるよう工夫されている。特に、6年生の「場面に応じた言葉づかい」では、話す内容が同じであっても、相手によって言葉遣いを変える必要があることを具体的な例を挙げて説明されており、実生活の場面を思い浮かべながら学べるよう工夫されているほか、同じく6年生の「どう立ち向かう？もしもの世界」の単元では、未知のウイルスが広がるという架空の設定の下、様々な情報を多面的に検討して意見文を書く活動が設定されており、実生活における報道やインターネット、SNSなどの情報を的確に読み取り、信頼性を確かめる情報活用能力の育成につながるよう、よく工夫されている。さらに、6年生の「インターネットの投稿を読み比べよう」では、インターネットで意見を交流する場を取り上げ、実際の投稿のやり取りに近い横書きの文章を読み比べることにより、説得の工夫を見つけて実生活の話し合いの場で生かすことにつなげられるようになっており、優れている。</p>	<p>○巻末付録の「言葉の木」では、各学年に応じて「似た意味の言葉、反対の意味の言葉」や「同じ言葉の木」、「慣用句の木」などが設定されており、普段自分が使っている言葉に立ち止まらせることで、言葉に対する豊かな感覚を育むことができるよう工夫されている。</p> <p>○1年生下巻巻頭及び各学年巻頭の「ひろがる言葉 〇年生で学ぶこと」において、身に付ける言葉の力や学習したことが実生活のどのような場面で役立つかが例示されており、工夫されている。特に、5年生の「話し言葉と書き言葉」では、インタビューの会話と学校新聞の記事を比較することで、それぞれの言葉の特徴や違いに気付き、実生活でも活用できるよう工夫されているほか、6年生の「なぜわかり合えなかったのかな？」では、会話やメッセージアプリを使ったやり取りで誤解が生じた例を取り上げ、その原因を考えることで、実生活の様々な場面や相手に応じてどのような言葉をどのように使うことが適切であるかを学び、生かすことができるよう工夫されている。</p>	<p>○2年生以上の各学年にある「きせつのことば」では、四季に合った言葉や詩が掲載され、日本の季節の変化とそれを表す言葉のもつ豊かさを意識できるよう工夫されている。</p> <p>○各単元末の「いかそう」では、学習内容と学校生活・日常生活とのつながりを示す場面を具体的に例示しているとともに、2年生以上の各学年に「言葉について考えよう」を位置付け、キャラクターの日常生活での失敗や悩みを通して、自分の日常生活で使っている言葉を見つめ直し、学んだことを実生活で生かすことができるよう工夫されている。特に、6年生の「話し言葉と書き言葉」では、インタビューした内容を文章にして伝えるという具体的な場面を例示し、音声で表す言葉と文字で表す言葉の違いや特徴、相手に伝えるうえで気をつけるべき点について考えるとともに、デジタル機器でのやり取りの場合の注意点も取り上げるなど、実生活にも生かすことができるよう工夫されている。また、6年生の「デジタル機器と私たち」では、自分のデジタル機器の使い方を振り返り、より良く付き合うために大切なことを提案する活動が設定されており、提案したことを実生活で生かすことができるよう工夫されているほか、同じく6年生の「インターネットでニュースを読もう」では、ニュースサイトと新聞の紙面を比べる活動を通して、ニュースサイトの読み方を知り、生活や学習で生かすことを促す工夫が見られ、優れている。</p>

【選定の観点5】

我が国の言語文化、言葉の特徴や使い方、情報の扱い方に関する事項について、教材や活動が適切に取り上げられていること。

発行者名		
2 東京書籍	17 教育出版	38 光村図書
<p>○各学年の「伝えたい言葉」では、昔話、神話、慣用句、俳句、故事成語、百人一首、古文、漢文、古典芸能などを取り上げ、伝統的な言語文化に親しんだり、長く使われてきた言葉について理解を深めたりすることができるよう工夫されている。</p> <p>また、2年生以上では、四季に合わせて年間4回の「季節の足音」を設け、季節感あふれる詩や短歌、俳句とともに、二十四節気や和風月名などを掲載し、言葉の美しさを味わえるよう工夫されている。</p> <p>○2年生以上に「情報の扱いに関する事項」を扱う「情報のとびら」を年間3回に位置付け、学習する事項を「関係」「整理」「調査」「論理」の4つの観点で系統的に整理して配列することで、「読むこと」での学びを「書くこと」での学習に効果的に結び付けて、「言葉の力」の習得と活用を促すようになっており、優れている。</p>	<p>○各学年の「言葉の広場」と「言葉の文化」において、原則として古典作品に触れる教材と、季節の風物や言葉遊びなどの言語文化に目を向ける教材を系統的に配置し、我が国の言語文化に興味を持つことができるよう工夫されている</p> <p>○情報を扱うときの文型や話型の例を「話すこと・聞くこと」「書くこと」単元の「大事な言い方」や「読むこと」単元の「ここが大事」で示すとともに、全学年の巻末付録にある「情報のまとめ」や「大事な言い方を確かめよう」と連携し、情報の扱い方について理解が深められるよう工夫されている。</p>	<p>○神話・伝承、民話・昔話、俳句・短歌、古文・漢文などの作品を多数取り上げ、これらに親しむ活動を通して、日本語の美しさや豊かさに触れるとともに、我が国の言語文化を継承し、新たな創造や発展を願う態度を育むことができるように工夫されている。また、2年生以上では各学年概ね2か所に「声に出して読もう」を設け、俳句や短歌などの伝統的な言語作品に触れて音読をしたり暗唱をしたりすることができるよう工夫されている。さらに、2年生以上では、各学年4か所に「季節の言葉」を設け、日本人の季節感を育んできた様々な伝統行事や風物などを言葉とともに取り上げるとともに、それらを題材とした韻文に触れることで語感を育むことができるようになっており、優れている。</p> <p>○「情報の扱い方に関する事項」に特化した「情報」教材を2年生以上では年間2回に位置付け、単元の学習とつなげて指導できる位置に設定し、重要なポイントを理解し日常に生きる情報活用力を育むことができるよう工夫されている。また、2年生以上にある巻末資料「図を使って考えよう」において、学習活動で情報を整理するための思考ツール等が掲載されており、思考する際の手立てとして活用できるようになっており、優れている。</p>

【選定の観点6】

単元構成の系統性・発展性に加え、カリキュラム・マネジメントの視点から他教科等や現代的な教育諸課題との関連、また他校種との接続や家庭・地域との連携について工夫・配慮されていること。

発行者名		
2 東京書籍	17 教育出版	38 光村図書
<p>○各領域の単元、言葉の特徴やきまりに関する内容が、系統的・発展的にバランスよく配列されている。</p> <p>○6年生の「発信しよう、わたしたちのSDGs」では、SDGsについて協働的に調べ発信する活動を設定しているほか、環境、情報化社会、戦争・平和、防災・安全、食育、郷土・伝統などの様々な現代的諸課題にも関連する教材を多く取り上げ、児童が関心を高めて考えをもつことができるよう工夫されている。また、各単元末の「生かそう」の項目では、「算数の学習で分かったことや考えたことについて黒板などを使って説明する」と示すなど、「言葉の力」を他教科で生かせる場面が具体的に示されており、優れている。</p> <p>○1年生の「小学校のことをしようかいしよう」では、新1年生に学校を紹介する単元が設定されており、児童が円滑に小学校生活になじめるよう工夫されている。また、6年生の『言葉の力』を振り返ろう」では、小学校の学習でできるようになったことを振り返るとともに、中学校での学習への期待を膨らませることができるよう工夫されている。</p> <p>○6年生の「いざというときのために」では、様々な自然災害に備え、自分や家族の身を守るために必要な対策について考えたことを提案する活動が設定されており、家庭・地域との連携により学びが深まるよう工夫されている。また、4年生の「お願いやお礼の手紙を書こう」で、お願いやお礼、案内など様々な目的に合わせて書くという活動を通して、地域の人々との関係を深められるよう工夫されている。</p>	<p>○各領域の単元、言葉の特徴やきまりに関する内容が、系統的・発展的にバランスよく配列されている。</p> <p>○5年生の「世界遺産 白神山地からの提言」及び6年生の「雪は新しいエネルギー」では、他教科や社会的課題に関連する教材が用いられるほか、3年生以上の巻頭「○年生で学ぶこと」においては、SDGsに関連する項目に目標のアイコンを示すことで、児童が現代的諸課題に関心を持つことができるよう工夫されている。また、巻末の「言葉の道具箱」の中には、アンケートのとり方や電話のかけ方、電子メールの送り方などが示されており、他教科等との関連が図れるよう工夫されている。</p> <p>○児童が円滑に小学校生活になじめるよう、1年生の初めは入学期の登下校や学校生活の場面の絵を多く示しているほか、生活科との連携を意識した構成にすることで、体験から学びにつなげることができるよう工夫されている。また、6年生の「ひろがる言葉 出会った言葉を振り返ろう」では、6年間の学習を振り返り、卒業式で自分に送りたい言葉を選ぶ活動を通して、中学校での学習への期待を膨らませることができるよう工夫されている。</p> <p>○6年生の「パネルディスカッション 地域の防災」では、地域で災害が発生した場合に、身を守るために必要な対策について話し合う活動が設定されており、災害時の対応を家族と話し合うことや、地域の避難場所の確認に触れるなど、家庭・地域との連携を促すよう工夫されている。また、3年生の「地域の行事」では、地域の行事について調べたことを発表する活動が設定されており、地域への関心を高められることができるよう工夫されている。</p>	<p>○各領域の単元、言葉の特徴やきまりに関する内容が、系統的・発展的にバランスよく配列されている。</p> <p>○5年生の「自然環境を守るために」では、日本や世界の環境問題について調べ、考えたことを発信する活動を設定しており、SDGsに関連する教材を多く取り上げたり、2年生以上の巻末に「SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けて」として図書を紹介したりするなど、児童が関心を高めて自分の考えを持つことができるよう工夫されている。また、3年生の「食べ物のひみつを教えます」や6年生の『鳥獣戯画』を読むなど、他教科等との関連を意識した単元が配列されているほか、モデル文として他教科の題材を取り上げている単元もあり、工夫されている。</p> <p>○1年生の「てがみでしらせよう」では、手紙を書く相手として幼稚園や保育園の先生が設定されており、保幼小の接続を意識した工夫が見られる。また、6年生の「大切にしたい言葉」や「今、わたしは、ぼくは」、「卒業するみなさんへ」の単元では、これまでの学習や生活を振り返り、自分の言葉で学んだことをまとめたり、今後大切にしていきたい言葉を考えたりする学習が設定されているほか、「中学校へつなげよう」において、小学校で身につけた言葉の力を振り返り、できるようになったことや身に付いた力を生かしたい場面を書き込む欄を設け、中学校生活や中学校での学びに期待を膨らませることができるようになっており、優れている。</p> <p>○4年生の「もしものときにそなえよう」では、自然災害に対する備えについて調べて書く活動が設定されており、災害経験者の話や市の資料を取り上げて、早めの避難や必要な備えの違いについて触れるなど、家庭・地域との連携を促すよう工夫されている。また、3年生の「気持ちをこめて、『来てください』」では、運動会や学習発表会の案内を書いて届ける活動を通して、地域の人々との関係を深めたり、巻末付録「手紙を送ろう」と連動させたりして、実生活でも手紙を書く意欲につながるよう工夫されている。</p>

【選定の観点7】

基本的人権の尊重及び道徳性の育成の視点に立った内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道徳教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。

発行者名		
2 東京書籍	17 教育出版	38 光村図書
<p>○2年生以上の各学年に著名人からのメッセージを掲載した「未来を生きる君たちへ」を掲載するとともに、問題を解決するために話し合う単元や、各単元の中に協働する場面を設定することにより、相手を尊重する態度や道徳性を養うことにつながるよう配慮されている。</p> <p>○文学的文章は、児童の心に響く人の生き方や他者への思いやりに触れることができるよう工夫されており、「希望と勇気、克己と強い意志」「友情、信頼」「思いやり、感謝」「国際理解、国際貢献」「感動、畏敬の念」など、道徳の項目との関連を図ることができる教材が多く取り上げられている。</p>	<p>○問題を解決するために話し合う単元や、各単元の中に協働する場面を設定することで、相手を尊重する態度が育つよう配慮されている。</p> <p>○文学的文章は、児童の心に響く人の生き方や他者への思いやりに触れることができるよう工夫されており、「真理の追究、創造」「相互理解、寛容」「公正、公平、社会正義」「自然愛護」「感動、畏敬の念」など、道徳の項目との関連を図ることができる教材が取り上げられている。</p>	<p>○問題を解決するために話し合う単元や、各単元の中に協働する場面を設定することで、相手を尊重する態度が育つよう配慮されている。</p> <p>○文学的文章は、児童の心に響く人の生き方や他者への思いやりに触れることができるよう工夫されており、「希望と勇気、克己と強い意志」「真理の追究、創造」「友情、信頼」「思いやり、感謝」「よりよい学校生活、集団生活の充実」「国際理解、国際貢献」「自然愛護」「感動、畏敬の念」など、道徳の項目との関連を図ることができる教材が多く、バランスを考慮して取り上げられている。</p>

【選定の観点8】

表記や表現について、文章や写真、図表等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成等について配慮がなされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

発行者名		
2 東京書籍	17 教育出版	38 光村図書
<p>○B5版で、促音や拗音をこれまでより小さくし、文学的文章・説明的文章の本文には5行ごとの行数字に加え、一行ごとに「・」を付けており、さらに1年生及び2年生では語のまとまりを意識した適切な位置で改行するほか、文字の大きさ、字間、行間とも読みやすく、囲みや矢印、優しい配色など、レイアウトも工夫されている。</p> <p>○特別支援教育の専門家による校閲を行い、色だけで区別・判断する表現を避けたり、必要に応じて色以外の情報を加えたりして色覚の多様性に配慮されている。また、UDフォントが採用されており、全ての児童にとって見やすく読み間違いしにくいよう工夫されている。</p> <p>○造本は堅牢で、軽量化かつ強度に優れた紙を使用し、表紙には耐久性に優れた加工が施されており、適切な造りである。</p> <p>○再生紙や植物油インキを使用し、「グリーンプリンティング認定工場」で印刷されるなど、環境にも配慮されている。</p>	<p>○B5版で、文学的文章・説明的文章の本文には5行ごとの行数字に加え、一行ごとに「・」を付けており、さらに字間や行間も読みやすく、配色やレイアウトも工夫されている。</p> <p>○特別支援教育の専門家による監修の下、色による指示や色に基づく活動を避けることにより、色覚の特性に配慮されているほか、UDフォントやCUDが採用されており、全ての児童が見やすいよう工夫されている。</p> <p>○造本は堅牢で、強度を維持しつつ軽量の紙が使用されており、適切な造りである。</p> <p>○再生紙や植物油インキを使用し、環境にも配慮されている。</p>	<p>○B5版で、とめはねや画数が分かりやすい書体を使用しており、さらに1年生及び2年生では、語のまとまりを意識して適切な位置で改行するほか、文字の大きさ、字間、行間とも読みやすく、配色も工夫されている。</p> <p>○UDフォントやCUDが採用されており、CUDの専門家による校閲を行い、混同しやすい配色を避けたり、形や文字と合わせて判断できるようにしたりするなど、色覚の多様性に配慮し、工夫されている。</p> <p>○造本は堅牢で、薄い紙を使用しており、適切な造りである。</p> <p>○原料や製法など環境に配慮した紙や植物油インキを使用し、環境にも配慮されている。</p>

※UDフォント：ユニバーサル・デザインフォント、CUD：カラー・ユニバーサル・デザイン